

1月11日 令和8年 西原町 二十歳のつどい

20歳を迎える皆さんの門出を祝福する「令和8年西原町二十歳のつどい」がさわふじ未来ホールで開催されました。



西原東中学校区



西原東中学校区代表
田中煌洋さん

本日、私たちは二十歳という大きな節目を迎えました。この集いを催してくださった皆様、私たちを温かく見守ってくださった西原町の皆様に心より感謝申し上げます。

私は今、東京で生活しています。インターンでの経験を通じ、「自由であることの責任」を肌で感じました。今も、自分が何者になりたいかという答えは見つかっていませんが、「人を喜ばせる」という指針さえ持つていれば、自分を見失わずにいられると確信しています。

そして、最も感謝を伝えたいのは両親です。上京して挫折したとき、一番に手を差し伸べてくれたのは二人でした。離れてみて、ようやくその愛情の深さに気づくことができました。お父さん、お母さん、本当にありがとうございます。これから先、何度も壁にぶつかるかもしれません、私は「自分の選んだ道を正解にできる人」になりたいです。苦しい時期があっても、それは「通過点」に過ぎません。すべての寄り道に意味があったと言えるような力強い人生を歩んでいこうと思います。



今年は西原中学校区366名、西原東中学校区155名の計521名が希望を胸に二十歳の門出を迎えました。参加者は、鮮やかな着物やスーツに身を包み、旧友との久しぶりの再会に笑顔があふれています。

決意表明では、両中学校区代表の言葉に参加者は襟を正し、新たな決意とともに晴れやかなスタートを切りました。

崎原町長は「今年の干支である内午にちなみ、すべて“うま”くいく飛躍の年にしてください」とお祝いのメッセージを贈りました。



西原中学校区



西原中学校区代表
城間勇人さん

本日は、私たちの門出に際し、このように盛大な二十歳のつどいを開催していただき、誠にありがとうございます。

二十歳という節目の年に、中学時代を共に過ごした仲間たちと共にこの場に立てていること、とてもうれしく思うと同時に、一層身の引き締まる思いがします。

20年間で積み重ねてきた日々は、決して順風満帆ばかりではありませんでした。うまくいかない時も、迷った時もありました。それでも今日こうして胸を張って前に進めるのは、そばにいてくれた皆さんのおかげです。

これから私たちは、それぞれの夢に向かって歩みだします。社会は変化が早く、不安もありますが、同時に大きなチャンスが広がっています。私たちは、この地域で育った誇りを胸に、責任ある大人として、そして誰かの力になれる人として、しっかりと前へ進んでいきたいと思います。

